

SDGs 経営を見据えた ICT の活用に関する研究 －ICT に着目した SDGs 先進事例の分析－

アブストラクト

1. 背景と問題認識

持続可能な開発目標（SDGs：Sustainable Development Goals）が2015年の国連サミットで採択された。企業は統合報告書やサステナビリティレポートを開示し、その取組みをSDGs活動としていかに組織全体に浸透させるかが求められているが、具体的かつ本質的な取組みは非常に少なく、掲げた約束のほとんどが実行に移されていない。また、AI、IoT、ビッグデータ等の革新的なICTの活用が進む中、SDGsを意識して自社課題や社会問題を解決するために、どのようにICTを活用し、どの17のゴールや169のターゲットを目指せば良いか不明確な現状がある。

2. 研究の目的と仮説

各企業がSDGsに取り組むことをSDGs経営と同意ととらえ、SDGsの取組みを始めた情報システム部門の社員にとってICTとSDGsターゲットとの関連性が明確になることで、自社で活用できるICTから目指すべきSDGsターゲットを判別できるようになり、SDGsの取組みに寄与できると考えた。

3. 研究アプローチ

はじめに、SDGsにおける事例を調査し、収集を行い、ICTを活用した事例に絞り再編し、SDGsの活動の際に自社課題との関連性からターゲットを判別できる事例集を作成した。

本事例集を使用して、ICTの活用状況とSDGsターゲットの関連性について分析した。

(1) ICTの活用状況に着目した分析

17のゴール、169のターゲット、およびウェディングケーキモデルについてICTの活用状況を確認する。さらに、詳細分析にて、ICTとの関連性の高いSDGsターゲットの条件を決定する。

(2) ICTの活用方法に着目した分析

定量的および定性的な観点から、ICTとSDGsターゲットの関連性を詳細に分析する。

また、本事例集によって「SDGsとICT活用の関連性を明確化できるか」を定量的に評価するためには、実際に使用する必要があるため、本分科会メンバー各社へのアンケートにより、その新規性・有用性を評価することとした。

4. 結論

研究成果となる事例集の具体的な利点は、以下の通りである。

(1) 定量分析および定性分析の結果を整理した一覧から、ICTと関連性のあるSDGsターゲットが分かる。

(2) ICTの活用方法や活用場面等、別の視点での事例の分析により、新たなゴールやターゲット判別手法の発見や分析精度の向上につながる。

本事例集に対するアンケートの結果からも、新規性・有用性が確認できた。

5. 今後の課題

今回、SDGsの取組みとICTとの関連性を明確にする研究を進めたが、自社で活用できるICTから目指すべきSDGsターゲットを判別する検証は、アンケートによる評価に留まるため、実務での有効性は検証できていない。また、本事例集はSDGsに取り組む上での使われやすいICTや活用分野、SDGsターゲットの汎用的な活用方法の紹介までに留まっている。さらに、本事例集をもとにSDGsの取組みを実現するためのICTの細分化や、SDGsに対する貢献度の判断基準の策定、分析ロジックの整合性の評価と仮説の反証についても改めて行う必要がある。